

財団法人 8020 推進財団

平成 22 年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録

1. 事業名：NPO との協働による住民参加型歯科保健推進事業（は～もに～プロジェクト）

2. 申請者名：新潟県歯科医師会

3. 実施組織：は～もに～プロジェクト

4. 事業の概要：

「は～もに～プロジェクト」では、過去 6 年間の住民活動支援組織（NPO）との協働により、住民参加型歯科保健事業を推進するための基盤を整備するとともに、住民参加による自律的な歯科保健活動推進のための具体的なモデルを提示してきた。今年度は、「歯科医師の啓発」および「地域との多様なネットワーク形成」を柱に事業を展開、さらに、地域歯科保健活動に関する実践的なマニュアル資料の作成に着手することを目的とした。

5. 事業の内容：

歯科医師への啓発として、ファシリテータ研修会を開催した。歯科医師を対象とし、住民参加型歯科保健活動のすすめ方について、関連地域での実践例を通じ研修を行うことを目的としている。本事業の評価については既に実施済みであり、現在は普及段階に達している。

また、地域との多様なネットワーク形成として、住民参加型歯科保健活動の実施マニュアル資料、および「は～もに～プロジェクト」の紹介パンフレットの作成に着手した。今後同マニュアル資料の完成と共に、全国都道府県歯科医師会を含め関連施設に資料を配付する予定である。さらに、一般住民を対象とした啓発資料として「いろはかるた（は～もに～カルタ）」を作成した。今回、保育園および小学校で「は～もに～カルタ」を使用していただき、その実施状況について評価した。特に保育園では、年長児を対象に実施することで、キーワードを覚え、また、家族も含め歯科保健に対する意識が高くなるなどの成果が認められた。小学校では食育と歯科保健をからめた活動である「イートハートプロジェクト」の一環に組み込んでいただいた。児童は 1 年生から 6 年生をまじえた活動を通じて歯科保健に対する意識が高まった。

6. 実施後の評価（今後の課題）：

過去 6 年間の本事業については新潟市の中でも K 区を中心に活動を行ってきた。本事業の継続が歯科医師会員の意識にどのように影響したのか評価することを目的に調査を実施した。調査対象は、新潟市 K 区の歯科医師、対照群として新潟市の中心部である C 区の歯科医師である。質問紙を郵送し、ファックスによって返信してもらった。その結果、おおむね、K 区の会員の方が地域歯科保健活動の重要性を理解している傾向が示された。フッ化物歯面塗布の 5 年間の増加傾向、は～もに～プロジェクトの認知度に対しては統計学的にも有意であった。回収率が低いこと、などから対象者を代表した値とは言い難いが、K 区の方が、地域歯科保健に対する意識が高く、若干地域住民の行動変容にも繋がっていると考えられた。

本活動の評価から、住民参加型歯科保健活動が地域歯科医師会員や住民に浸透し始めている実態が明らかになってきた。今年度の成果を踏まえ、次年度以降、住民参加型歯科保健活動の全国展開もさらに検討していきたい。